

# 海外派遣の安倍政権批判

## 南スーダンから撤退を

### 日本平和委が抗議行動

武器使用の新任務を付与された陸上自衛隊が青森空港から南スーダンへ出発した30日、日本平和委員会は、「自衛隊を送るな。南スーダンから撤退を」と、東京・浜松町駅前で宣伝行動を行いました。



南スーダンからの自衛隊撤退、戦争法廃止の署名をする男性（左）＝30日、東京・浜松町駅前

千坂純事務局長は、

内戦状態の南スーダンが「大規模な残虐行為が起きる現実的な危険がある」とした潘基文（パン・ギムン）国連事務総長の警告を紹介。「武力紛争ではない」と国民をだまし、戦争法発動の第一歩として海外派遣を強行する安倍政権を批判しました。「政府は憲法9条に基づいて平和的な外交の努力に全力をあげることです」と訴えました。

岩月康範事務局次長は「自衛隊が『殺し、殺される』事態に陥らないように抗議の声を広げてください」と呼

びかけました。

小走りでピラを受け

12/1 5夜

取ってオフィスビルに駆け込む女性や、「自衛隊員のいのちを守れ！」と書かれた横断幕を見る市民の姿が見られました。

「署名したい」と行動参加者に声をかけた同江東区の男性（49）  
「会社員」は「日本を

守ると宣誓した自衛隊が、政府の勝手な理由で外国へ派遣され、命の危険にさらされていると思います。PKOは平和維持活動ではなく多国籍軍との『作戦』です」と話しました。